

2021 年度第 3 四半期決算説明会 主な質疑応答

1. 通期業績の営業利益見通しを 100 億円上方修正したが、要因は何か？

- ・ 業績変動リスクに備えたリスクバッファを、半導体不足による自動車減産の影響を受けた車両過給機など産業システム・汎用機械と、鋼材価格・海上輸送費の高騰の影響を受けた橋梁・水門など社会基盤・海洋の営業利益減少に充てる形で取り崩した。
- ・ 一方で、民間向け航空エンジンのスペアパーツ売り上げ増などにより、航空・宇宙・防衛の営業利益を上方修正した。

2. 民間向け航空エンジンについて、今後の回復見通しは？

- ・ 国際線については、各国の入国制限が続いており、来年度も需要がコロナ前に戻りきることは想定していない。一方で、欧米などで国内線の需要回復が続いており、スペアパーツ取扱高も順調に回復している。2022 年度はコロナ前の 8 割程度まで需要が戻るとみている。
- ・ また、PW-1100G エンジン本体の採算性向上の効果、および同エンジンの性能改善にかかる費用が軽減されていくことも、利益向上につながると考えている。

3. 航空・宇宙・防衛事業領域の関係会社の土地売却益は、業績にどのように反映されているのか？

- ・ 本売却益は期初より事業領域において計画していたものであり、成長事業の創出に向けた投資原資を確保するための資産売却として調整額に計上していたものとは別である。
- ・ 当四半期における売却益が当初計画に比して好転し、当該セグメントの営業利益見通しを押し上げる要因となった。

4. 「プロジェクト Change」の目標である、来年度の営業利益率 8%達成の展望は？

- ・ 民間向け航空エンジンの業績は回復基調であり、当四半期では資産売却の効果を除いても、営業黒字になっている。来年度は、回復度合いはさらに大きくなり、相当程度の営業利益が見込めると考えている。
- ・ 加えて、半導体の供給不足による自動車生産への影響が徐々に解消し、車両過給機の販売台数も戻ってくると想定している。販売台数が戻れば、コスト構造強化の成果もしっかり刈り取れるとみている。
- ・ 他の事業においてもしっかりと利益を積み上げ、「プロジェクト Change」の目標達成を目指していく。

以上